江別市民文化祭69

邦楽邦舞大会

●令和4年10月23日
●えぽあホール

新型コロナウイルス感染拡大により令和二年、三年の開催は中止を余儀なくされ、三年ぶりに開催することが出来ました。コロナ禍と言う事もあり当日幕を開けるまで、また開催後もお客様や出演者の体調の事等心配な日々の連続でしたが皆様のご協力のお陰で無事終えることが出来ました。参加団体は三団体と例年よりも演目は少なかったのですが、一般参加の方々のご出演もあり充実した舞台となりました。この三年で会員数減少や未だに活動再開が出来ない団体もありますが、今後も邦楽邦舞大会の歴史と伝統芸能の継承は各団体、会員の皆様と力を合わせて続けていきたいと思っております。

出演団体　若柳流若樹会
花柳流紀二朗会
藤間流稀恵路会

江別市民文化祭69

市民器楽祭

●令和4年10月30日
●えぽあホール

三年ぶりの開催でした。コロナ対策として、入場者の検温とアルコールによる消毒を実施、合わせて緊急時の連絡先の記載を依頼しました。

出演者は一個人、三団体、観客数は百二十名でした。

江別市民文化祭69

エイベッツバンドカーニバル

●令和4年11月6日
●えぽあホール

今回もコロナ禍での開催となった「エイベッツバンドカーニバル2022」ですが出来る限りの感染対策で無事終わる事が出来ました。協力して頂いたスタッフおよび出演者の皆さんご来場頂いたお客様にこの場を借りてお礼申し上げます。

コロナ禍での開催ではありましたが前年と違ったことは足を運んでくださったお客様が多かったことです。前回開催後に頂いた「楽しかった」「来年も楽しみにしています」等のメールや嬉しいお言葉を頂き来年、再来年と続けて行こうと決意した事と世情が少し明るくなった事が大きかったのかなと思っています。

前年の反省を活かしイベントのPR等も頑張りました。ご来場者様のスムーズな入場など改善点もいくつか見つかり次回の課題として取り組んで行きたいです。「エイベッツバンドカーニバル2022」に携わって頂いた関係者様スタッフ出演者の皆様ご来場頂いたお客様に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今年は十一月二十六日を予定しています。更に良いイベントが出来るよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

（ライフフォープロジェクト　代表　佐藤　深雪）

芸術文化
特別記念事業

ベーネアンサンブルコンサート

●令和4年10月16日
●えぽあホール

二〇二二年十月十六日えぽあホールにて、第十回記念コンサートを開催いたしました。

二〇〇八年の秋にわずか四名で結成した当アンサンブルは、今年で創立十五周年を迎えますが、年ごとに新しいメンバーが加わり、この度は多くの方々の温かい励ましに支えられ、総勢三十数名で演奏できましたことは私たちにとって大きな喜びでした。

コロナ禍にあっても、指揮者藤澤光雄先生の熱心なご指導の下、月三回の練習を重ね、年一回の定期演奏会を中断せず続けられたことは会の自信になりました。今後のさまざまな問題、困難もきっと乗り越えていけるものと思います。

これからも音楽を通じて感動を分かち合うことを心のよろこびとして努力してまいります。

（代表　中野　清恵）

コロナに負けず、とても立派な発表になりました！

吟詠～旺華流旺吟会　詩舞～踊翠流鶴双会

映像吟詠～光鳳吟詠会

江別市民文化祭 69

詩吟 剣詩舞大会

●令和4年11月3日
●えぽあホール

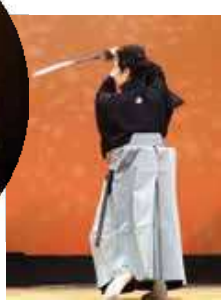
三年ぶりの大会で詩吟・剣詩舞会員一同精一杯の発表。種目は独吟・合吟を始めシンセサイザー演奏の吟詠、剣舞・詩舞吟詠や居合吟詠、さらには映像吟詠で「幕末の漢詩人たち」「北海道讃歌」など多様な内容で充実した舞台となりました。

総出演者90名の舞台

惣岳流博由会

光鳳会 / 博由会代表

居合
佐々木俊明氏


踊翠流剣舞

シンセサイザー伴奏吟詠　日本詩吟学院岳風会

岳風会詩研究会

吟詠～碧窓流恵峰会

芸術文化
特別記念事業

演劇の普及と街づくりを目指して～
江別演劇プロジェクトWindsの活動

「江別演劇プロジェクトWinds」は、創立二十五周年記念公演として、十二月十五日えぽあホールで、青年団「日本文学盛衰史」を公演しました。

「Winds」の前身は、一九九七年二月に設立された「えぽあアートサポート」です。この年に開館したえぽあホールは、北海道演劇財団と提携し、演劇の創造、公演を始めましたが、この活動をサポートするために誕生しました。ここで創造されたのは『ブルーストッキングの女たち』（その後札幌でも公演）、『若草物語』（その後全国で一ヶ月公演）でした。

その後、「江別Tpsくらぶ」「江別札幌座くらぶ」と名称を変え、二〇一九年に、「江別演劇プロジェクトWinds」として生まれ変わりました。

主な活動は、①演劇公演　②演劇に関するトークショー、シンポジューム　③演劇を活かした街づくり活動　④演劇を活かした青少年育成、です。演劇公演は、主催、共催を含め、これまでに十六回行ってきました。

創立二十五周年の二〇二二年は、公演活動に初めて道外の劇団を取り上げました。国内だけでなく広く海外でも活躍する平田オリザ氏が主宰する青年団です。作品は『日本文学盛衰史』、高橋源一郎氏の同名の原作を大胆に脚色し、鶴屋南北戯曲賞を受賞するなど、東京での初演は高く評価されました。総勢二十四人も出演する大作でしたが、各方面のご協力、ご支援を得て、無事公演することが出来ました。

当日は、多くの観客が集まり、日本文学を過去、現在、未来にわたって俯瞰的に描いた舞台に、深い感動を得ていました。道央圏では江別だけの公演でしたので、江別市民以外の方も多く観劇され、江別とえぽあホールの芸術活動の深まりを広く印象付けることにもなりました。

公演直前には、「平田オリザビフォアトーク」を行いました。日本の近代の文学を社会の動きと結び付けて語ったこのトークは、好評だっただけでなく、直後の公演の理解を助けることにもなりました。

Windsは近年、「未来へのチケット」と称して、江別の未来を担う青少年を公演に招待しています。更に、そのチケットを活用して観劇した方から感想文を募集し、優秀賞を選び、翌年の札幌演劇シーズン等の公演に招待する「未来へのチケットプラス」事業を行っています。演劇の専門家への道に進む方への応援ですが、これまでこの優秀賞受賞者から二人が、平田オリザ氏が学長を務める兵庫県立芸術文化観光専門職大学に進学しました。文字通り、未来へのチケットとなればと期待しています。

Windsは、約二十名のボランティアが、出来る範囲で活動を担っています。参加してくださる方を募集しています。まずは、毎月の打ち合わせを見学してください。

（事務局長　平田　修二）

江別市民文化祭69

市民陶芸展

●令和4年11月3日～5日
●野幌公民館ギャラリー

今回の陶芸展は、文化協会員では、民芸陶房「のっぽろ」三名、千古窯生徒の会十二名、一般参加で、陶芸「ふれあい広場」十四名、江別市女性団体協議会九名、合計で三十八名、作品数二百点以上が出展されました。また、三日間の開催中には、五百十名の一般来場者を迎えることが出来ました。

前回までの、展示ブロックリーダーが不在のため、責任者の岡村さんの指導のもと、皆さんの協力をいただきながら、何とか無事に搬入、展示、撤収することが出来ました。初めての出展者、過去に出展経験者といろいろな方々がいらっしゃいました。会場での出展者同士の意見交換は、とても貴重で、前向きなものでした。普段、一人で制作している方、サークル、教室で制作活動をしている方がほとんどです。結果、どうしても独り善がり、自己満足?に走ってしまいます。今回、他の出展者の作品を観ること、情報はとても刺激になりました。一般の社会活動では、他の情報収集は当たり前のことです。残念ながら、陶芸の世界は、一面しか見えない書物か、美術館に行かなければなりません。しかし今回の文化祭では、立体で、製作者の生の、活きた情報を得ることができました。思いがけない発色、こだわり、成功談、失敗談と本当に刺激的な情報があちこちから誕生していました。次回は、来場者にも、観るだけでなく、読んで、会話のできるお祭りにしたいものです。

江別はレンガと焼き物の町とよく言われています。立派な「セラミックアートセンター」の建物があり、プロの陶芸家もいらっしゃいます。趣味で陶芸をしている方が、躊躇していることは、窯の存在です。自宅に用意することは、設備的に簡単ではありません。粘土で成形しても、窯で焼かなければ、陶芸の面白さは実現しません。情報不足で恐縮ですが、市民は公的機関の「窯」使用は、容易に可能なのでしょうか。運用情報を知りたい陶芸仲間は、たくさん居ると思います。市民がせっかく「やきもの市」で啓発されても、「窯」でストップしてしまいます。陶芸の底辺を拡げるためにも陶芸仲間、文化協会、市、の活動が期待されます。

最後に文化祭の終了した翌日から次回の文化祭に向けて、制作活動は始まっています。前回の皆さんの作品から情報と刺激を受けて、今年どんな創作が出展されるか楽しみです。

（千古窯生徒の会　徳田　哲哉）

江別市民文化祭69

市民書道展

●令和4年11月3日～5日
●野幌公民館ホール

「二〇二一年 今年も魅せます　熱い文化の心」。コロナ禍に悩まされ続きの文化祭でしたが、熱意ある新たな方の作品もいただき盛会裏の作品展示になりました事に深く感謝です。

今回は一般応募に増もあり、文化協会の三団体（江別書人集団・江別書道会・野点ａｒｔの会）併せて三十三名の方々による「漢字」「かな」そして「篆刻」等、昨年同様の三十八作品となりました。隣接コーナーには、前年同様の「子供習字」と「アイヌ刺繍」、「鉄道模型」の展示が加わって、親子連れも目立つほど多く、前年より百余名増の四百名超に及ぶご来観をいただきました。

主管団体はかなりの出品が減った中、一般応募の増加と団体会員の協力により前年並み展示を継続できました。

ご観覧の皆さん、そして出品者の皆さん誠にありがとうございました。

今後も江別書道文化の広がりにご協力いただき、活性化することを切望する次第です。

（江別書人集団　事務局長　山田　静山）

※誌面の都合上、全作品の掲載ならずご容赦を